

短歌の継承 田中拓也

短歌の継承について、真剣に考えている。真剣に考えるという次元ではない。短歌の継承に強い危機感を抱いているといった方が適切である。このようなことを書くとき、短歌滅亡論の蒸し返しかと思う人も少なくないと思う。しかし、私は従来の短歌滅亡論とは異なる観点で危機感を抱いている。

私は「心の花」二月号の時評において「ジュニアの育成」という一文を発表して以来、子どもたちと短歌の関わり方の現状について意識して調べようになった。国語教育の教育実践論文、地方公共団体や大学・出版社の主催する各種コンクール、短歌総合誌や結社誌など、できるかぎり視野を広げて読むようにした。その結果、わかったことが一つある。それは、俳句の世界との決定的な違いであった。

現代俳句協会のホームページ (<http://www.gendaitaikyug.jp/index.html>) を未見の方がいたら、閲覧していただければ一目瞭然である。現代俳句協会では明確に「ジュニアの育成」の方向性を打ち出していることがわかる。まず、同サイトには「ジュニアネット句会」のコーナーが常設されている。大変わかりやすいコーナーなので、その入り口の案内文を引用したい。

君もあなたもジュニアネット句会に参加しませんか。無料でいつでも入会できます。この句会には参加者がお互いに選をして評価します。(これを互選といいます。)その他に小学生と中学

生の部は、全句の中からお兄さんとお姉さんが別に選句をして感想を書きます。優秀な作品は学期毎にホームページ上で表彰されます。毎月の作品・選句結果・高句点はメールで全員に自動的に送られます。(ホームページでも見ることができます。)

現代俳句協会では、俳句の基本を大事にしますが、季語に拘らず、字足らず字余りでもけっこうです。俳句の上手い下手は問いません。新しい発想の俳句も大歓迎です。どうぞ自由に元氣よく作ってみてください。

同コーナーの記録を見ると、コーナーが始まったのは平成十五年四月。記録によると月によって参加者数はまちまちであるが、現在の会員登録者は二四八名。小中学生がどのような経緯でこのサイトに入ってきたのかは、さだかでないが、想像するに現代俳句協会の会員が中心となり、会員周辺の子どもや学校関係者にはたらきかけて会員を増やしていったように思う。また、現代俳句協会のジュニア研修部では幼稚園や小中学校への出張教室も活発におこなっており、その模様をブログに掲載するなど精力的な活動に取り組んでいる。このような、草の根的な活動は歌壇でもないわけではないが、現代俳句協会という大規模な団体での施策を見ると、これから五十年後・百年後の短歌人口と俳句人口の違いに繋がるように感じられてならないのである。

もちろん、実作者および鑑賞者の人口の多少と文学の価値は別次元の問題であることは言うまでもない。だが、そろそろ短歌界も五十年後・百年後の未来を見据えて、短歌の継承について真剣に議論する時期がきているのではないだろうか。